富山県の眼科医をつなぐ情報マガジン

vol.5

EYE LiNK

FREE PAPER

対談

加藤　剛
高岡市民病院・眼科主任部長

渡辺このみ
あさひ総合病院・眼科部長

大田妙子
市立砺波総合病院・眼科部長

林　篤志
富山大学医学薬学研究部
眼科学講座教授

future's eye

御手洗慶一
東條直貴
富山大学附属病院眼科

眼科医療の地域向上を目指して

医師同士の連携が治療の幅を広げ、医療の質を向上させる。

高岡市民病院・眼科主任部長
加藤 剛

あさひ総合病院・眼科部長
渡辺このみ

市立砺波総合病院・眼科部長
大田妙子

富山大学医学薬学研究部眼科学講座教授
林 篤志

大学病院と地域の拠点病院や開業医との医療連携は、慢性的な医師不足に悩む地域医療にとって重要な政策になっている。医療連携をスムーズに運ぶには、医師同士による顔の見える関係構築が不可欠。より良い医療連携にはどんなことが必要なのか。拠点病院の眼科部長と富山大学附属病院の林篤志教授に話し合っていただいた。

「病病連携」スタイルが定着

林●わたしは常々、同じ県内で働く医師同士がお互いに良い意見を出し合って連携することが、結局は患者さんに質の高い医療を提供することになり、地域医療の向上にもつながるのではないかと考えています。きょうはぜひ皆さんとより良い医療連携について意見交換したいと思っています。

加藤●眼科の治療はここ数年ずいぶん進歩し、多様化してきています。その中で、地域の拠点病院や開業医さんで治せる疾

加藤 剛 かとう・つよし

高岡市民病院・眼科主任部長

●プロフィール
1988年　富山医科薬科大学医学部卒業
1990年　長野県立須坂病院眼科医長
1994年　あさひ総合病院眼科医長
1998年　富山医科薬科大学眼科講師
1999年　高岡市民病院眼科部長

［専門分野］
白内障、緑内障、糖尿病網膜症、網膜剥離

［専門医］
日本眼科学会専門医

［所属学会］
日本眼科手術学会、日本眼科学会

渡辺このみ わたなべ・このみ

あさひ総合病院・眼科部長

●プロフィール
1986年　富山医科薬科大学医学部 卒業
1990年　富山医科薬科大学大学院 修了
1994年　富山医科薬科大学眼科学教室 講師
1998年　あさひ総合病院 眼科医長
2000年　あさひ総合病院 眼科部長　現在に至る

[専門分野]
斜視、弱視、眼科一般

[専門医]
日本眼科学会専門医、光線力学療法認定医、オルソケラトロジー認定医、ボトックス認定医

[所属学会]
日本眼科学会、日本眼科手術学会、日本弱視斜視学会、日本網膜硝子体学会、日本緑内障学会、日本神経眼科学会

患はもちろんありますが、難しい症例も多い。わたし自身に置き換えれば、自分の手で治せる疾患はせいぜい7～8割くらい。だけどわたし以外に、大学病院の先生が当院で診てくださっているので現場の医師として非常に安心なんです。現状では、林教授を含めて大学から3人の先生方に来ていただいていて、網膜硝子体と角膜、斜視・弱視に対して大学病院と同じ診療をしていただいて、時には自ら大学病院へ紹介されて治療していただき、めどがついたらまた患者さんを逆紹介していただく。そういう連携ができることが助かりますし、患者さんも安心して治療が受けられると感じています。

渡辺●わたしが勤務する病院は、富山市内から離れていて高齢者も多い地域。患者さんが市内まで通うのは大変ですし、できるだけ地元で治療できる体制を整えながら対応しています。でも症例によってはどうしても大学病院にお願いせざるを得ません。以前、紹介させていただいた症例は、目の中にシリコンオイルを入れる手術でしたが、大学病院で手術をお願いし、術後の管理と追加手術をわたしが勤務する病院で行いました。できるものなら大学病院から応援に来ていただきたいですが、現状は難しい症例、治療しにくい症例を大学病院でお願いし、術後管理などをわたしのところで行う連携スタイルをとっています。

大田●病院の規模と立ち位置は加藤先生の高岡市民病院と似ていますが、違うのはわたしは大学が金沢だったので、応援の先生は金沢大学から来ていただいています。以前は網膜硝子体や斜視手術もしていたのですが、最近は専門的な治療を受けたい患者さんが多いので、治療や疾患の状態によって大学病院に行ってもらったり、来ていただいたりという連携をとっています。出身が異なる大学病院との連携がうまくいかない時代もあったのですが、林教授が来られてから大学間の垣根がなくなって、いろんなことが相談できるようになったのは有難いですね。症例に関しても先日、ぶどう膜炎の患者さんについて大阪大学の先生をご紹介していただき、相談できたのが嬉しかったですし、患者さんにも喜んでいただけました。

専門外来があるのが心強い

林●最近の治療法として、たとえば硝子体に「アバスチン」や「ルセンティス」といった抗VEGF薬を注射する方法が広がってきています。治療を行うには倫理委員会を通さないといけないし、治療そのものも何日後かにフォローアップの診察が必要になるなど、日常の診療を工夫していかないと、少ない人手をカバーするのは大変ではないかと想像するのですが、皆さんどんな工夫をされていますか？

渡辺●わたしが勤務している病院は地域的に開業医が少ないので、たとえば連携をお願いしようにもなかなか難しい状況にあります。ですから、ほとんどわたしともう一人の医師の二人でこなしているのが現状です。患者さんにある程度、大学病院で治療していただき地元に逆紹介という形で戻ってきてもらって、こちらでフォローアップするしかありません。開業医さんとの連携が組めれば、もう少し治療の仕方は工夫できると思うんですが…。

林●たしかにそうですね。連携と言って

大田妙子 おおた・たえこ

市立砺波総合病院・眼科部長

●プロフィール
1986年　金沢大学医学部卒業 金沢大学眼科入局
1987年　富山市民病院 眼科勤務
1988年　辰口芳珠記念病院 眼科勤務
1989年　公立羽咋病院 眼科勤務
1990年　金沢大学眼科 助手
1991年　市立砺波総合病院 眼科勤務 現在に至る

[専門分野]
白内障、緑内障、糖尿病網膜症

[専門医]
日本眼科学会専門医

[所属学会]
日本眼科学会、日本眼科手術学会、日本眼炎症学会
日本網膜硝子体学会、日本角膜学会

も地域によって差があるので、手術症例、難治症例で大学病院や拠点病院と連携するしかないのはわかります。あさひ総合病院は、二人ともベテランの先生ですから治療はお任せして大丈夫なので、手が足りなくなったときに大学から応援するという方法を今はとらざるを得ないですね。大田先生はいかがですか？

大田●先ほどの続きになりますが、大学病院間の垣根がなくなり、専門の治療を希望する患者さんを大学病院に紹介しやすくなったというのはあります。アバスチンを使う治療を行う場合でも、倫理委員会にかけるひな型がありますが、それを金沢大学、富山大学双方の書類を取り寄せて、より厳しいほうを選んで提出するということもあります。いずれにしても、治療法に関しては患者さんの希望に添った紹介ができますし、以前なら患者さんがドクターショッピングして終わっているようなケースだったのが、専門外来がしっかりしている大学病院をきちんと紹介できるので、それがとても心強いですね。

加藤●そう思います。5年くらいまでは正直、大学病院に症例についての相談も、患者さんの紹介もしにくかった面はあります(笑)。林教授がこられてからは本当に紹介しやすくなりましたし、患者さんに「林教授に診てもらいましょうか?」と言うだけで患者さんの表情が晴れ晴れとするのがわかります。それだけ専門の先生に診てもらえるというのは、患者さんにとっても喜ばしいことだと感じます。

連携を深め、質の向上につなげる

林●皆さんのお話をうかがって開業医、基幹病院、大学病院との連携は、今のところうまく機能しているように感じます。そのなかでわたしたち大学病院には、開業医や基幹病院とは違う役割が求められます。わたしが基幹病院へ足を運ぶのは、一つはその病院の治療の幅を広げることになるからです。治療の幅を広げることが、基幹病院と開業医の役割を明確にし、それが患者さんにとっても

メリットになる。もう一つは眼科医の教育です。若い先生が一人前になるためには症例や手術の経験を積まないといけない。それには大学だけではなく基幹病院での研修で学ぶこともありますし、勤務の中で身につける場合もあるでしょう。その時に、基幹病院が開業医と同じような診療をやってもあまり意味がありません。開業医ではなかなか診れない症例、わからない疾患、つまりはある程度、セレクトされた疾患を基幹病院が診療していくことで、眼科での教育もできるようにする。そうすることで医療全体の質を上がり、大学病院、基幹病院、開業医それぞれの役割が明確になり、連携をより深めることにつながると考えています。

大田●わたしたち基幹病院にとって大学病院と連携できる最大のメリットは、やはり難治症例や眼窩内腫瘍などのレアケースを紹介できることです。いつでも相談したり、紹介できる体制が整っていることはとても安心ですし、患者さんにも自信をもって説明できます。最近は、地域連携室という部署がどこの基幹病院にもありますし、その部署を通して開業医さん、大学病院との連携はスムーズにできるようになっているのも有難いですね。

渡辺●わたしたちの地域には開業医がいないので、基幹病院が開業医の役割も担わざるを得ないのが現状です。そんななかで、わたしたちの手におえない症例、たとえば網膜硝子体、羊膜移植、週末の緊急症例などについて大学病院にお任せできるのはとても心強く思います。願わくば、大学病院の先生をもっと増やしていただけたらいいですね。

効果の高い治療法を模索

加藤●大学病院には専門外来が次々立ち上がってきていますが、個人的には神経眼科の専門外来を立ち上げていただければほぼ眼科関係の専門は網羅できるのではないかと感じていますし、そうなれば富山県内でおおむね治療対応ができてしまうのではないかと期待しています。それと新しい眼科医が増えて欲しいと心から思います。林教授からも高岡市民病院は医師3人体制にしたいと常々おっしゃっていただいていますので、それも是非、期待しています。

大田●医師不足対応は、早急にお願いしたいと思います。眼科を選ぶ医師が少ないし、減っていると聞きます。個人的には、クリニカルクラークシップをもう少しフレキシブルに対応できるようになるといいのではと考えます。現状は、大学からの要請で学生が選ぶ診療科については一ヶ月間研修するということになっていますが、実際に現場で一ヶ月間医学生を指導するのはかなり大変です。それをたとえば、大学とたすきがけで研修できる選択肢をつくるなど、ぜひ教授にも働きかけていただけたらと思います。

林●なかなか簡単ではないですが、そういう現場の声をできるだけ反映していかないことには何も変わりませんから、アピールしていこうと思います。わたしは保険で認められていなくても、患者さんにとって効果が高い治療は、大学病院だけではなくいろんな病院でできるようになったほうが良いと思っています。大学病院が真っ先に実行して新しい治療、効果が高い治療であることが立証されれば、基幹病院でやれるようになったらいい。いずれにしても、新しい治療法を含めて大学病院はもっともっと専門領域を深め、なおかつ医療の中におけるわたしたちの役割を認識して、今後さらに皆さんと連携を深めていきたいと思います。本日はお忙しい中、ありがとうございました。E

林 篤志 はやし・あつし
富山大学医学薬学研究部
眼科学講座教授

「インプラント手術」が薬事承認

緑内障は、網膜神経節細胞が徐々に死滅していく疾患で、視野が狭くなったり、部分的に見えなくなる特徴がある。一度、失った視野は回復が困難なことから失明の原因にもなりやすい。現在、40歳以上の日本人の20人に一人の割合で発症するといわれている。これまで目の眼圧が高くなることが原因とされてきたが、眼圧が正常であっても緑内障にかかっている場合もあり、近年は視神経乳頭のぜい弱性が関係していると考えられている。しかし、緑内障を進行させる危険因子が眼圧であることに変わりはなく、治療の基本は眼圧を下げる、または正常に保つことにある。

緑内障の治療法には、薬物治療、レーザー治療のほか、外科手術がある。富山大学附属病院では、緑内障のレーザー治療（選択的線維柱帯形成術）をはじめ、トラベクロトミー、トラベクレクトミーなどの手術治療を緑内障全般にわたり行っている。

「とくに血管新生緑内障などの難治性緑内障に対する硝子体手術および特殊な羊膜を使用した緑内障手術などを行い、治療成績の向上に努力しています。緑内障術後の房水漏出などの緊急を要する場合には、富山大学独自の乾燥羊膜によるパッチ治療を行い、良好な成績を得ています」というのは、御手洗慶一講師。平成23年9月にアメリカ留学から戻り、緑内障の専門的な治療にあたっている。

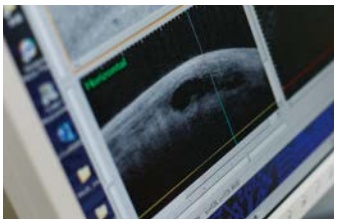
そのなかで御手洗講師が、緑内障治療の一つとして今後取り組んでいきたいと考えているのが「インプラント手術」である。この手術はこれまで日本では薬事承認されていなかったが、平成23年から認可されたのに伴い、使用基準、契約条件などが整えば実施したいとしている。

「これまでの手術症例の30～40％が新生血管緑内障で、濾過手術（トラベクレクトミー）が中心です。眼圧降下作用があり長期の持続は見込めるのですが、結膜の斑痕化が起こりやすく、術後のケアにも限界がある。それらの課題を解決するのがインプラント手術で、トラベクレクトミーに代わる治療法として注目されています。この術式は、眼圧を下げるというより、15～20㎜Hgの正常値をコントロールするのが特徴です。手術は、トラベクレクトミーを一度、受けた患者さんが対象になります。まだ症例はありませんが今後、使用基準を見極めながら徐々に増やしていけたらと考えています」

そのほか、新しい緑内障手術として「カナロプラスティー」という、原発開放隅角緑内障に対する新しい手術で、シュレム管を拡張させる術式にも取り組んでいる。

開業医との病診連携をアピール

一方、御手洗講師とともに、富山大学附属



future's eye

DEPARTMENT OF OPHTHALMOLOGY, UNIVERSITY OF TOYAMA.

難治性の高い緑内障の領域で先進的な治療に取り組む。

富山大学附属病院眼科では、網膜や角膜、緑内障など難治性の高い疾患に対して大学病院の強みと専門性を生かした高度な治療を行っている。そのなかで、緑内障についてはこれまでスタッフが少ないことから治療、研究が手薄だった。このほど千葉大病院から医師を迎え入れ、海外留学していた医師も大学に戻り、緑内障の治療と研究に弾みがついている。

富山大学附属病院眼科
御手洗慶一 医師

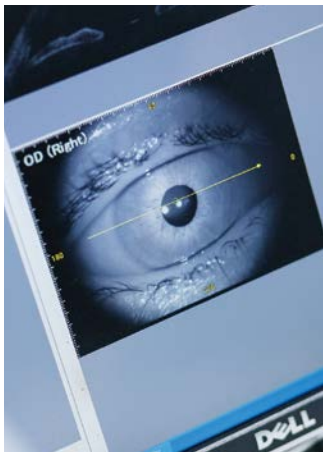
富山大学附属病院眼科
東條直貴 医師

病院の緑内障グループをけん引するのが、東條直貴医師。千葉大附属病院から昨年10月に着任、現在、難治性緑内障を中心に治療、研究にあたっている。

「患者さんは主に開業医さんからの紹介で、それも難治性の高い症例が多いんですが、大学病院だからといって難治性の高い患者さんばかり診るわけではありません。緑内障は患者さんの数が多く、開業医さんの力を借りないととてもこなせないと私は思っています。とくに術後管理が重要ですから、開業医さんの管理の経験がとても重要な疾患です」

そう語る東條医師は、難治症例にかかわらず、今は一人でも多くの患者を紹介してほしいと訴える。というのも、東條医師と御手洗医師が正式に着任するまで、富山大学附属病院では緑内障の治療、研究についてはスタッフが手薄だったことから、なかなか患者の数を受け入れられなかった背景がある。

「緑内障と言っても点眼やレーザーで治療できる症例もありますし、必ずしも手術で眼圧を下げるだけが治療法ではありません。悪くなるスピードをどこまで抑えるかが治療のポイントですから、それぞれの患者さんの状態にあわせて早い段階から紹介いただけると有難いです」



富山大学附属病院では、レーザー治療でもなかなか設備できないSLTレーザー治療に積極的に取り組んでいることから、東條医師は「SLTレーザー治療対象になる患者さんもぜひ紹介してほしい」とアピールする。ちなみに緑内障グループでは、世界で初めて可能になった、24時間連続で眼圧が測れるコンタクトンズによる眼圧日内変動の検討を予定しており、早期発見とより患者のニーズに合わせた治療に取り組んでいく方針だ。E

PROFILE

東條直貴
とうじょう・なおき

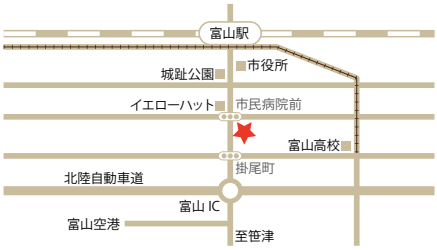
2002年　広島大学医学部医学科卒業
2002年　千葉大学附属病院 研修医
2004年　千葉大学附属病院 医員
2005年　山形大学附属病院 医員
2008年　千葉大学大学院修了
2008年　千葉大学附属病院 医員
2008年　君津中央病院 医師
2011年　富山大学眼科 助教

御手洗慶一
みたらい・けいいち

1998年　大阪大学医学部卒業
1998年　大阪大学附属病院研修医
1999年　大阪府立母子保健総合医療センター眼科
2001年　関西労災病院眼科
2003年　兵庫県立西宮病院眼科
2008年　富山大学附属病院眼科助教
2009年　富山大学附属病院眼科診療講師

わがまちの⑤ 眼科を訪ねて

富山市立富山市民病院
〒939-8511 富山市今泉北部町2番地1
TEL.076-422-1112(代)



迅速な院内連携

富山市の中心部を南北に走る国道41号線沿いに595床、29科をもつ基幹病院であります。交通の便の良さから、富山市内や県内のみでなく、岐阜・高山方面からの患者さんの来院もみられます。スタッフは常勤医師2名、視能訓練士1名、看護師2名、医療事務1名の計6名で、毎日約60名前後の患者さんを診察しております。

当院で診察・加療を行っている疾患の特徴として、手術を必要とする疾患では、白内障が最も多く、月に約40例程度の執刀をしております。また、不定期に硝子体手術や外眼部の手術を施行しております。その他の疾患としては、ぶどう膜炎や神経眼科疾患、角膜疾患等も比較的多く御紹介いただき、診断や治療に苦慮することも多々あります。

このような慌ただしい日常診療の中で、とても助かっている事として、他科の医師を始めとして、細菌・病理検査科や放射線科・生理検査科との連携が比較的スムーズであり、迅速に検査が進められることが挙げられます。来院されたその日のうちにCTや頸部エコー、鏡検までは施行できるため、早期診断・治療を開始することが可能であります。

眼科部長
山田芳博
やまだ・よしひろ
平成9年卒
[専門領域]
眼科全般
[資格]
日本眼科学会専門医
[学会]
日本眼科学会
日本眼科医会
日本緑内障学会
日本眼科手術学会

平日の輪番日は負担減少

最近のトピックスといたしましては、平成23年10月より、当院の敷地内に富山市救急センターが移転し、眼科救急医療におきましても、勤務医の負担を減らすべく、開業医の先生方のご協力のもと、平日の1次救急を22時30分まで診療していただいております。おかげさまで平日の輪番日の負担は減少しております。

富山における眼科医療は年々改善され、我々勤務医における環境も少しずつ改善されていると感じております。今後も富山市内、県内の基幹病院や開業医の先生方との連携をさらに深め、よりスムーズに、より良い医療の提供ができるよう頑張っていきたいと思います。これからも、よろしくお願いいたします。

［薬価基準収載］

広範囲抗菌点眼剤

トスフロ®点眼液0.3%

処方せん医薬品（注意－医師等の処方せんにより使用すること）

TOSUFLO® Ophthalmic Solution 0.3%

トスフロキサシントシル酸塩水和物点眼液

【効能・効果】、【用法・用量】、【禁忌】を含む
【使用上の注意】等については、製品添付文書を
ご参照ください。

製造販売元
日東メディック株式会社
富山県富山市八尾町保内1－14－1

（資料請求先）日東メディック株式会社 おくすり相談窓口
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号

2011年4月作成

Ⓡ 登録商標

Alcon®

© 2011 Novartis

製造販売元（輸入元）
（文献請求先・製品情報お問い合わせ先：メディカル統括部学術情報部 03-3588-3221）
日本アルコン株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-7

2011年12月 作成

Santen

広範囲抗菌点眼剤 薬価基準収載

処方せん医薬品（注意－医師等の処方せんにより使用すること）

クラビット®点眼液1.5%

Cravit®ophthalmic solution 1.5%

レボフロキサシン点眼液

Cravit

●〔効能・効果〕、〔用法・用量〕、〔禁忌を含む使用上の注意〕等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元
参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3−9−19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

提携
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3−5−1

Ⓒ無断転載禁止

2011年12月作成
CW11L000A42WC_A

PROFILE

富山大学附属病院
矢合 隆昭
やごう・たかあき

富山県富山市生まれ
2009年　富山大学医学部卒
2009年　初期研修(富山大学附属病院)
2011年　富山大学眼科医局入局
　　富山大学附属病院勤務

ミライの眼科医

富山県内で明日の眼科医を目指して日夜がんばっている研修医のみなさんを紹介していきます。

「林教授から『眼科はおもろいで！』と言われたことが後押しになった」

眼科医を志した理由：学生時代に一番インパクトがあったのが眼科でした。眼科の美しい手術をみて、自分もいつか手術ができるようになりたいと思いました。林教授から「眼科はおもろいで！」と言われたことも後押しになりました。

眼科医をやっていて良かったと思うこと：患者さんの視力が改善したときの喜んだ姿をみると嬉しくなります。仕事がおもしろいと感じられることが何よりも眼科医をやっていて良かった点です。眼科は非常に専門性の高い科であり、診断から治療までの流れを責任もって行える点も非常にやりがいを感じられるところです。

今後目指すところ：幅広く知識を深めた上で専門性を確立できればと思っています。適切な判断、治療を行えるように最新の知見についても熟知した眼科医になりたいです。

患者さんに対して日頃どのように接しているか：患者さんが実際にどのような症状に困っているのか、しっかり耳を傾けるようにしています。また、病状説明についてもできるだけ分かりやすく、細かな点まで丁寧にお話しするようにしています。患者さんに信頼されるようにこれらの点を徹底しています。

今特に頑張っていること：幅広く毎日新しいことを習得できるように心がけています。自分が分からない点について調べたり、手術執刀が終われば修正すべき点が何かを考えたりしながら今は一歩ずつ前進しています。

わたしのオススメ。 Recommendation!

長田 裕子
かみいち総合病院
眼科
富山県中新川郡上市町
法音寺 51

スパカフェ
【COCONOWA 心和（ここのわ）】

富山県魚津市本江1丁目26番地
tel.0765-23-5084　http://www.sqol.jp/about/coconowa.html
営業時間：月曜日～土曜日 10:00～18:00(ランチタイム 11:30～14:00)
日曜祝日 10:00～15:00
定休日：木曜日

美食ブームも一段落し、今は健康ブームも注目されつつある。魚津のあるクリニック内に、栄養学に基づいた健康で安全な、身体にやさしい料理を提供してくれる、とてもスタイリッシュなカフェがある。白を基調にした清潔感あふれる施設に入るとまず、スタッフの元気で明るい笑顔の挨拶に迎えられる。心和では、ほぼ無農薬で栽培された地元産の有機穀物や野菜を中心に、食材が持っている栄養を損なわずにその特性や旬を生かし、治療や疾病予防にも繋がる、ヘルシーで美味しいお料理をシェフと管理栄養士とのコラボレーションで提供してくれる。さらに米国の有名歌手が取り入れていることで有名になったマクロビオティックのメニューもある。このお店はランチがおすすめで、2種の日替わりメニューから選べる。豆や野菜中心のマクロビオティックメニューと、肉魚をメイン料理にした、心和流メニューがあり、どちらのメニューも主食の玄米が特に美味しい。味つけはシンプルで、だからこそ素材の味がよく生かされている。食後には、卵やバターは一切使わなくても甘いデザート、この日はカカオを素材にしたチョコケーキの豆乳クリームがけが振る舞われた。カカオの純粋な苦みに豆乳クリームがなじんでしっとりと美味しかった。お店をでるとそのお隣には、エステ、トリートメントマッサージ、デトックス、アンチエイジングなど、魅力ある掲示に目を奪われる。このクリニック内には元気で若々しく、心身ともに健康に歳を重ねていけるよう、ライフスタイルをトータルコーディーネートしてくれるブースが沢山ある。これからは、生活習慣病に気をつけて、美味しく食べて元気になりませんか。

EYE LiNK 5

TOYAMA EYEBANK NEWS

富山県アイバンクからのお知らせ

富山県アイバンク事務局
入江真理

日頃は富山県アイバンクの事業推進に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年1年間に15名の方から崇高なご献眼を頂き、24名の方々へ移植手術を行いました。ドナーの平均年齢は83・4歳で内皮細胞数の平均は2587セルでした。ドナー年齢は高齢ではありましたが、移植には十分な内皮細胞数がありました。

また昨年は、登録者のうち4000人に対して「登録継続に対する意識調査」を行いました。回答数(580人)の26%にあたる約150人がすでに死亡されており献眼の意思が必ずしも生かされていないのが現状です。献眼の意思を生かすためには、登録者並びにその家族への継続的な正しい知識の啓発が必要なことから年1回広報誌を発行し配布しています。

現在、富山大学附属病院をはじめとして常に20名程度のレシピエントが待機しています。これらの角膜疾患の方が1日でも早く角膜移植手術ができるようドナーを増やすために啓発に努めたいと考えております。

2012年9月には富山県アイバンク設立20周年記念大会を開催いたします。皆様のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 富山県アイバンク
〒930-0194 富山市杉谷2630番地　富山大学医学部眼科内
TEL. 076-434-5710　FAX. 076-436-0146
http://www.toyama-eyebank.com

富山県眼科医療連携の会「アイリンク」設立に向けて

謹啓　益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

情報誌「EYE LiNK」は昨年１月より富山地域の情報提供誌として発行され民間企業にて運営してきましたが、この度、公益性及び公共性な運営を目指し2012年１月より富山県眼科医療連携の会「アイリンク」(非営利団体)として運営活動を実施致すこととなりました。

平成16年に新医師臨床研修制度が導入されて以来、地方では眼科医師数の減少によりその人材不足は深刻さを増しており、地域の眼科医療そのものの将来は、その医師不足から来る医療サービスの低下により深刻な課題となっております。
我々はこれらの状況を踏まえて眼科医療向上に向けた活動を積極的に行っていきたいと考えております。

富山県眼科医療連携の会「アイリンク」は、医師不足の状況において眼科の魅力を発信し地域の眼科医療の情報連携を進め、病病及び病診連携の為の情報交換会の開催や最新眼科情報などを掲載した無料情報誌の発行によって地域の眼科医療の向上を図ることを活動主旨としております。

地域の住民の方々が眼科医療について平等かつ情報格差のない医療サービスを受けられるように上記活動を通じて最新医療情報、医療連携に関する情報を積極的に配信し地域の眼科医療の向上に貢献することを目指して参ります。

皆様のご支援ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

富山県眼科医療連携の会「アイリンク」
理事長　　林　篤志

監修◎林 篤志（アイリンク理事長）
発行◎富山県眼科医療連携の会 アイリンク（事務局：富山大学医学薬学研究部眼科学講座内）
協力◎富山県眼科医会
印刷◎株式会社 メディカルアート　〒921-8051 石川県金沢市黒田1-33　TEL.076-269-4366

FREE PAPER